

# 安全データシート (SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : スライム抑制剤粉末タイプ

化学品の推奨用途 : ドレンパンのスライム抑制剤

整理番号 : SDS 53-73

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : クリアライト工業株式会社

住所 : 岐阜県関市山田1539-3

電話番号 : 0575-27-3051

FAX 番号 : 0575-27-3053

担当部署 : 技術部

緊急連絡先電話番号 : 0575-27-3051

作成年月日 : 2013年 12月 18日 改訂年月日 : 2022年 5月 2日

## 2. 危険有害性の要約

### <GHS 分類>

#### 物理化学的危険性

全ての項目において「区分に該当しない」もしくは「分類できない」である。

#### 健康に対する有害性

急性毒性 (吸入 : 粉じん、ミスト)	: 区分 4
皮膚感作性	: 区分 1
生殖毒性	: 区分 2
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 区分 2 (神経系)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 区分 2 (神経系、呼吸器系)

#### 環境に対する有害性

水生環境有害性 短期 (急性)	: 区分 1
水生環境有害性 長期 (慢性)	: 区分 1

(注) 記載なきGHS分類区分 : 区分に該当しない / 分類できない

### ラベル要素

#### 絵表示又はシンボル



注意喚起語 : 危険

#### 危険有害性情報

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

吸入すると有害

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

神経系の障害のおそれ

長期にわたる又は反復ばく露による神経系、呼吸器系の障害のおそれ

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

## 注意書き

### 【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。

取扱い後はよく顔や手を洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

環境への放出を避けること。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

### 【応急措置】

皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

ばく露又はばく露の懸念が有る場合：医師に連絡すること。

ばく露の懸念が有る場合：医師の診察／手当てを受けること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。

皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

漏出物を回収すること。

### 【保管】

施錠して保管すること。

### 【廃棄】

内容物／容器を地方／国の規則に従って廃棄すること。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

成分及び含有量

成分名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法 No.
カチオン系化合物	非公開	非公開	非公開
有機窒素化合物	非公開	非公開	非公開
pH調整剤	非公開	非公開	非公開

---

#### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努め、なお気分の悪い場合は速やかに医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに多量の水で15分以上洗い流す。痛みのある場合は医師の手当てを受ける。(衣服にかかってしみこんだ場合も同様の処置を行う)
- 眼に入った場合 : こすらず、直ちに流水で15分以上まぶたの裏まで洗眼し、すみやかに医師の手当てを受ける。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
- 飲み込んだ場合 : 3~4杯の牛乳、ゼラチン、なければ水を飲ませる。無理に吐かせず、嘔吐した場合には再び飲ませる。直ちに医師の手当てを受ける。嘔吐させるか泄瀉させるかは医師の診断に任せる。痙攣を起こしていたり意識不明の場合は何も飲ませない。

---

#### 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 周辺環境に適した消火剤を使用する。
- 使ってはならない消火剤 : 情報なし
- 特有の危険有害性 : 加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。  
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。  
当該製品は分子中にN、Sを含有しているため火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)を放出する。  
当該製品は分子中にN、Sを含有しているため燃焼ガスには、一酸化炭素などの他、窒素酸化物系、硫酸酸化物系のガスなどの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。
- 特有の消火方法 : 消火作業は、風上から行う。  
周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。  
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。  
関係者以外は安全な場所に退去させる。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

---

#### 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。  
状況に応じた適切な呼吸用保護具を使用すること。  
関係者以外の立入りを禁止する。  
密閉された場所に立入る前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。
- 封じ込め、浄化の方法及び機材 : 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。
- 回収、中和などの浄化の方法及び機材 : 漏出したものをすくいとり、または掃き集めて紙袋またはドラムなどに回収する。  
粉末の場合は、電気掃除機(真空クリーナー)、ほうきなどを使用して回収する。

粉塵が飛散しないようにして取り除く。  
 微粉末の場合は、機器類を防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。  
 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。  
 床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。  
 漏出物の上をむやみに歩かない。  
 火花を発生しない安全な用具を使用する。  
 回収物の収納容器は、内容物の処分を行うまで密封しておく。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

- |     |  |
|-----|--|
| 取扱い | <ul style="list-style-type: none"> <li>・取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。</li> <li>・使用前に取扱説明書を入手すること。</li> <li>・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。</li> <li>・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。</li> <li>・取扱後は手などをよく洗うこと。</li> <li>・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。</li> <li>・屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。</li> <li>・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。</li> <li>・保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。</li> <li>・呼吸用保護具を着用すること。</li> </ul> |
| 保管  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・換気の良い場所で保管すること。</li> <li>・容器を密閉しておくこと。</li> <li>・施錠して保管すること。</li> <li>・酸から離しておくこと。</li> <li>・酸化剤から離して保管する。</li> </ul>  |
| 容器  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・推奨材料：ポリエチレン製</li> </ul>  |

## 8. ばく露防止及び保護措置

- |      |   |  |
|------|---|--|
| 管理濃度 | : | 未設定  |
| 許容濃度 | : | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ACGIH (TLV) : 未設定</li> <li>・日本産業衛生学会 : 未設定</li> </ul>        |
| 設備対策 | : | 蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。<br>取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。<br>機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。 |
| 保護具  | : | 保護メガネ・保護マスク・ゴム手袋・保護前掛け・保護靴   |

## 9. 物理的及び化学的性質

- |                   |   |       |
|-------------------|---|-------|
| 物理状態              | : | 粉末    |
| 色                 | : | 白色    |
| 臭い                | : | 無臭    |
| 融点／凝固点            | : | 150℃  |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲     | : | データなし |
| 可燃性               | : | データなし |
| 爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界 | : | データなし |

引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: データなし
動粘性率	: データなし
溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分配係数 (log値)	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び/又は相対密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: 「危険有害反応可能性」を参照。
化学的安定性	: 湿った空気中では変化する。
危険有害反応可能性	: 水溶液は弱アルカリ性である。 酸と激しく反応する。
避けるべき条件	: 加熱、酸との混合、混触危険物質との接触。
混載危険物質	: 酸
危険有害な分解生成物	: 二酸化炭素

## 11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ATEmixの計算結果が2413mg/kgのため、区分5に該当。対象国危険有害性区分補正処理により区分5から区分に該当しないに変更。 経皮 データ不足のため分類できない。 吸入: ガス GHSの定義による固体である。 吸入: 蒸気 データ不足のため分類できない。 吸入: 粉じん、ミスト ATEmixの計算結果が1.8mg/lのため、区分4に該当。
皮膚腐食性/刺激性	: 加成方式が適用できる成分からの判定: 区分3に該当。対象国危険有害性区分補正処理により区分3から区分に該当しないに変更。 本品の組成分に関して、「ヒト 30mg/3日一週間の軽度」「ウサギ皮膚の一次刺激指数(PDII)は0.3/8」との報告がある。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: データ不足のため分類できない。 本品の組成分に関して、「ウサギ 100mg リンス 軽度」「ウサギの試験で、Maximum Mean Total Score = 2.0/110(洗浄群)および8.3/110(非洗浄群)」との報告がある
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 有機窒素化合物が1%以上のため、区分1に該当。
生殖細胞変異原性	: データ不足のため分類できない。
発がん性	: データ不足のため分類できない。
生殖毒性	: 有機窒素化合物が3%以上のため、区分2に該当。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）	：	有機窒素化合物が1%以上のため、区分2(神経系)に該当。本品の組成分に関して、「ヒトの経口摂取後、ガスの過剰発生により急性的に胃破裂を起こし、入院に至ったケースが複数報告されている。」
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	：	有機窒素化合物が1%以上のため、区分2(神経系、呼吸器系)に該当。
誤えん有害性	：	データ不足のため分類できない。

## 1 2. 環境影響情報

### 生態毒性

水生環境有害性 短期（急性）	：	加算法の結果より区分1に該当。 (推定値) ニジマス LC50>5000mg/L(96h) (推定値) オオミジンコ EC50>1000mg/L(48h) (推定値) 藻類 EC50>500mg/L(5d)
水生環境有害性 長期（慢性）	：	加算法の結果より区分1に該当。
残留性・分解性	：	データ不足のため分類できない。
生体蓄積性	：	データ不足のため分類できない。
土壌中の移動性	：	データ不足のため分類できない。
オゾン層への有害性	：	データ不足のため分類できない。

## 1 3. 廃棄上の注意

### 廃棄物の処理方法

- ・廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
- ・内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

### 汚染容器及び包装

- ・容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
- ・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 1 4. 輸送上の注意

国際規制	：	海上輸送はIMOの規則に、航空輸送はICAO/IATAの規則に従う。
国連番号	：	2811
品名	：	その他の毒物（有機物）（固体）
容器等級	：	II
国内規制	：	海上規制情報 船舶安全法の規定に従う。 航空規制情報 航空法の規定に従う。 陸上規制情報 該当しない。
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	：	移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
緊急時応急措置指針番号※	：	154

※ 北米緊急時応急措置指針に基づく。米国運輸省が中心となって発行した「2008 Emergency Response

Guidebook (ERG 2008)」（一般社団法人日本化学工業協会によって和訳されている（発行元：日本規格協会）に掲載されている。

---

## 1 5. 適用法令

労働安全衛生法	:	非該当
化学物質排出把握管理促進法（P R T R法）	:	非該当
毒物及び劇物取締法	:	非該当

---

## 1 6. その他の情報

### 引用文献

- ・化学物質総合情報提供システム（独立行政法人 製品評価技術基盤機構）
- ・JIS Z 7252 : 2019
- ・JIS Z 7253 : 2019
- ・（財）民生科学協会（依頼試験結果）
- ・（財）日本食品分析センター（依頼試験結果）

### 責任の限定

本記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、危険性、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意してください。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用してください。ここに記載した GHS 分類区分の算出根拠は、現時点における日本公表データです。

なお、この情報は新しい知見に基づき予告なしに改訂されることがあります。